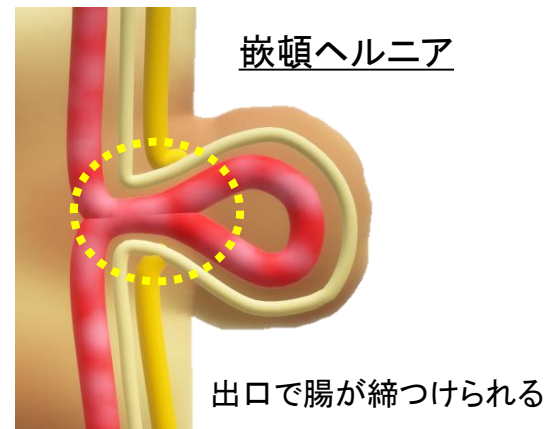
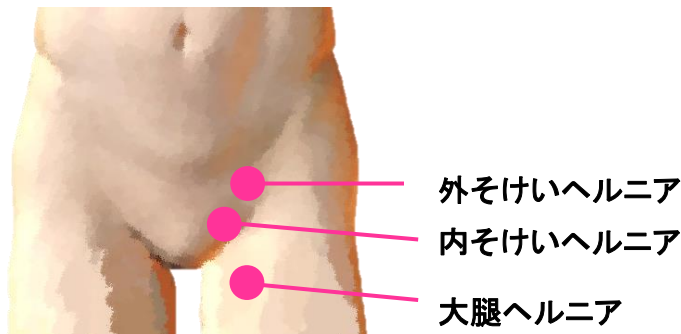


鼠径（そけい）ヘルニアについて

○鼠径（そけい）ヘルニアとは

そけいヘルニアとは、太ももの付け根の部分の筋肉の壁が弱くなってすき間ができた状態になり、おなかの中の腸や脂肪が飛び出してくることによりこの部位がふくれてくる病気です。いわゆる脱腸（だっちょう）であり、右側、左側どちらも発症することがあります。乳幼児から高齢者まで幅広く起こりうる病気で、乳幼児では先天的な要因がほとんどです。成人の場合は運動不足も含め身体の組織が弱くなることが要因で、中年以上の男性に多く見られます。長時間立っている時やおなかに力を入れた時にそけい部がふくらみ、違和感や痛みを感じます。寝たり、手で押さえると引っ込みます。

そけいヘルニアを放置していると、嵌頓（かんとん）状態になることがあります。これは、飛び出した腸や脂肪が、出口となるすき間（ヘルニア門）でしめつけられて引っ込まなくなった状態です。腸がかんとんしてしめつけられると、腸閉塞を起こします。激しい痛みや吐き気が出るようになります。腸の血流も障害（絞扼性）されると、腹膜炎となって命に関わる場合もあります。かんとんヘルニアでは多くの場合緊急手術が必要になります。



そけいヘルニアは、筋肉の隙間（ヘルニア門）の位置の違いにより3つに分類されます。

- 外そけいヘルニア ヘルニア門がそけい部の外側に位置します。最も多いタイプです。
- 内そけいヘルニア ヘルニア門がそけい部の内側に位置します。中年以降に多いタイプです。
- 大腿ヘルニア ヘルニア門がそけい部の内側に位置します。
女性に多く、最もかんとんを起こしやすいタイプです。

○そけいヘルニアの治療

基本的には、ヘルニア門を医療用人工補強材(メッシュシート)でふさぐ手術です。

当院で行っている手術方法は、

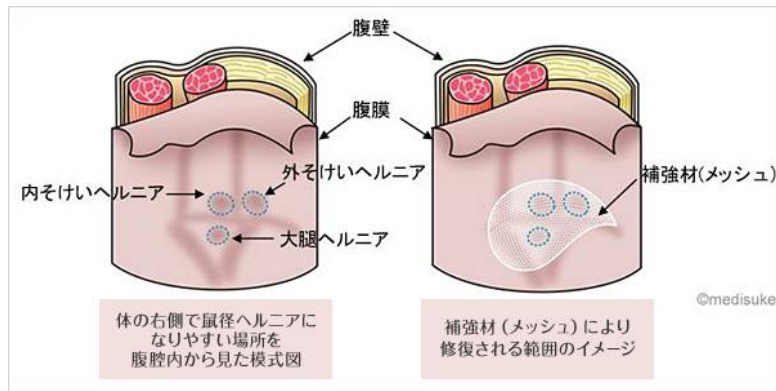
(1)腹腔鏡下ヘルニア修復術、(2)前方アプローチ

の二通りがあります。

腹腔鏡下ヘルニア修復術

全身麻酔で行う手術です。おなかに小さな穴を3か所開け、手術用ビデオカメラ(腹腔鏡)でおなかの中からそけい部を観察しながらメッシュシートでヘルニア門をふさぎます。ヘルニア門の観察が正確で左右両側のヘルニアに同時に対応できる術式です。術後の創部痛や違和感も少ないと言われています。

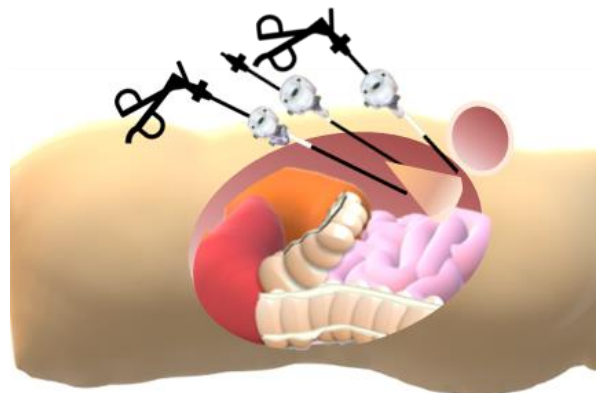
当院では大部分の患者様に対して、この方法を用いています。



前方アプローチ

全身麻酔または腰椎麻酔(下半身麻酔)で行う手術です。そけい部を切開してメッシュシートでヘルニア門を塞ぐ方法です。メッシュプラグ法とダイレクトクーゲル法があります。当院では、過去にお腹や前立腺などの手術をされている患者様に対してこの方法を用いています。

※状況により腹腔鏡下ヘルニア修復術と前方アプローチを組み合わせる場合があります。



○入院と退院後について

手術前日または手術当日朝に入院していただきます。ベッド上安静は手術当日のみで、経過順調であれば術後数日で退院となります。退院後、状態確認のための外来受診があります。

退院後、日常生活に特に制限はなく、入浴も可能です。ただし、腹圧が強くなる激しいスポーツや仕事などは、数週間は控えるようお願いしています。